

## 企画セッション

### ◆ 知財としての自然資本・生物多様性:社会法制度の最前線 ◆

#### 【講演者】

オーガナイザー

香坂玲氏 名古屋大学大学院 環境学研究科教授

スピーカー

鈴木睦昭氏 国立遺伝学研究所 産学連携・知財室室長

内山愉太氏 名古屋大学 大学院環境学研究科 特任講師

日置孝徳氏 東京工業大学 研究・産学連携本部 リサーチ・アドミニストレーター

#### 【概要】

本セッションでは遺伝資源、バイオミメティクス（生物模倣技術）を例に国際的なルールに基づいた組織内ルールの整備をする上での課題など研究推進と制度との関係およびそのあり方について取り上げる。

生物多様性条約では、ゲノム編集などを含む最新のライフサイエンスについての議論がなされている。また生物模倣・バイオミメティクスではISOの規格化など、国際的には急速に制度化が進んでいる。そこで本セッションでは、既存研究をレビューしつつ、最新の動向について専門家から報告を行う。

研究成果の社会実装が求められている現在、産業界や環境に与える影響と学術研究とのバランスをどう取るか（またと取っていくか）ということは研究者だけではなく、組織にとっても非常に重要なテーマである。またサイエンスやテクノロジーは研究者だけのものではなく、その知見や課題は広く社会に共有され、様々な立場の人、組織、国との間で適切な利害調整が行われた上で活用されていくことが重要である。今回のセッションを通じて様々なルールの背景や社会に与えるインパクトに関する理解および関係者との対話の重要性について参加者が考えるきっかけにしたい。

## 企画セッション

### ◆ 知財としての自然資本・生物多様性:社会法制度の最前線 ◆

#### 【略歴】

オーガナイザー

**香坂玲 氏** (名古屋大学大学院 環境学研究科 教授)

東京大学農学部卒業。ハンガリーの中東欧地域環境センター勤務後、英国で修士、ドイツ・フライブルグ大学の環境森林学部で博士号取得。2006年から2008年まで国連環境計画に勤務。近年は、農林水産省の設置した地理的表示の保護制度に関する委員、生物多様性条約に勤務。生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム (IPBES) の報告書のアジア・オセアニア地域アセスメント第1章統括執筆責任者 (CLA)、外部評価パネル委員などを歴任。

スピーカー

**内山愉太 氏** (名古屋大学大学院環境学研究科 特任講師)

専門は都市地域計画、資源管理、地理情報科学。千葉大学大学院工学研究科修了 (工学博士)。国連環境計画による若年層向けの地球環境概況 (GE0-6) 4章の主執筆者。

主な著書に、『農林漁業の産地ブランド戦略—地理的表示を活用した地域再生—』 (章分担、ぎょうせい、2015年)、『人としくみの農業—地域をひとから人へ手渡す六次産業化』 (章分担、追手門学院大学出版会、2016年)、『メガシティ2:メガシティの進化と多様性』 (編著、東京大学出版会、2016年) など。

**鈴木睦昭 氏** (国立遺伝学研究所 知的財産室 室長)

静岡薬科大学博士課程修了。薬学博士。テキサス大学医学生物学研究所 博士研究員、静岡県立大学助手・学内講師、カルフォルニア大学ロサンゼルス校 Visiting Professor、日本たばこ産業株式会社 主任研究員、東京大学先端科学技術研究所 知的財産マネジメント人材育成プログラムを経て、現職に至る。

**日置孝徳 氏** (東京工業大学 研究・産学連携本部 リサーチ・アドミニストレーター)

東北大学大学院修了。富士フィルムの研究部門および本社部門にて化学、ヘルスケア、安全性分野の研究開発、事業化、管理等に従事した後、京都大学にてライフサイエンス研究のコンプライアンス強化に取り組む。現在は東京工業大学にて主にライフサイエンス分野の産学連携コーディネート業務全般を担当。